

排出係数

自動車から発生する大気汚染物質の走行台キロあたりの車種毎・旅行速度別の排出原単位のこと。環境影響評価において沿道の大気質予測を行う際には自動車からのNO_x・PM等の排出ガス量を設定する必要がある。この設定にあたっては、小型・大型車類別の交通量及び旅行速度といった環境影響評価で想定できる道路交通データを用いることが有効かつ合理的であり、これらのデータを用いて大気汚染物質の排出量を推計するためには、車種毎・旅行速度別の走行台キロあたりの排出原単位が必要となる。

国総研 道路環境研究室 長濱 庸介

一般局

一般環境大気測定局のこと。大気汚染防止法第22条に基づいて、環境大気の汚染状況を常時監視している。設置の目的から、環境基準の適合状況の把握や大気汚染対策の効果の確認等の地域全体の汚染状況を把握するものと、特定発生源の影響を受け高濃度の局所汚染が出現しやすい地域での緊急時の措置に対処するためのものに分類される。設置場所としては、地域内を代表する測定値が得られるよう特定の発生源の影響を直接受けない場所を選定しなければならないとされている。

参考文献：国立環境研究所 環境数値データベース

<http://www.nies.go.jp/igreen/index.html>

国総研 道路環境研究室 長濱 庸介

自排局

自動車排出ガス測定局のこと。大気汚染防止法第20条及び第22条に基づいて、自動車排出ガスによる環境大気の汚染状況を常時監視している。設置場所としては、人が常時生活し活動している場所で、自動車排出ガスの影響が最も強く現れる道路端又はこれにできるだけ近接した場所にすることが望ましいとされている。

参考文献：国立環境研究所 環境数値データベース

<http://www.nies.go.jp/igreen/index.html>

国総研 道路環境研究室 長濱 庸介

大気安定

大気は、通常、地表付近の気温が高く、上空になるほど気温が低い。この状態を大気不安定という。この状態では、地表付近のより暖かい空気が上空へ向かおうとするとともに、上空のより冷たい空気が地表付近へ向かおうとして大気の上下方向の対流が起これ、大気汚染物質も攪拌され大気拡散が盛んに起こる。一方、夜間などにおいて、地表付近の気温が一時的に低下し、気温の上下方向分布が地表よりも上空の方が高くなるという逆転現象が生じる場合があり、この状態を大気安定という。この状態では、地表付近のより冷たい大気は地表付近に留まろうとし、大気は鉛直方向に滞留する。これに伴い大気汚染物質も地表付近に滞留し、大気汚染物質濃度が高くなるといわれている。

国総研 道路環境研究室 長濱 庸介

BCP（ビーシーピー）

事業継続計画（Business Continuity Plan）のこと。一般的には、企業が事業を行う上でリスクと考えられる事項について、それらの危機が発生した場合にどのように事業を継続するかをあらかじめ計画したものである。建設企業においては、自然災害をリスクとして想定した計画が多く、その場合のBCPとしては、体制や連絡先、業務の優先度や対応方法等、事業の継続に必要と考えられる事項が定められている。災害対応マニュアルは、BCPの一部とされる場合もある。

建設企業のBCPは、危機発生時の自らの事業の継続方針とともに、災害協定や維持工事に関連して新たに発生する災害対応業務への対応についても想定することが必要となり、その点において一般的な企業のBCPとは内容が大きく異なる。

近年では、企業のみならず行政機関においても、BCPを策定し、災害をはじめ感染症等の危機に備える動きがみられる。

国総研 建設経済研究室 大橋 幸子